

第 1 問

解答

A

- | | | |
|-----|--------------------------------|---|
| 問 1 | <input type="text" value="1"/> | ③ |
| 問 2 | <input type="text" value="2"/> | ① |
| 問 3 | <input type="text" value="3"/> | ③ |
| 問 4 | <input type="text" value="4"/> | ④ |

B

- | | | |
|-----|--------------------------------|---|
| 問 5 | <input type="text" value="5"/> | ② |
| 問 6 | <input type="text" value="6"/> | ② |
| 問 7 | <input type="text" value="7"/> | ④ |
| 問 8 | <input type="text" value="8"/> | ⑥ |

解説

A

問 1

正解は③。空欄 に当てはまる語句と、空欄 に当てはまる文の正しい組合せを選ぶ問題。

空欄 に当てはまるのはタンジマート。オスマン帝国は 19 世紀にタンジマートと呼ばれる近代化政策を開始した。

空欄 に当てはまるのは「イスラームの儀礼に配慮しつつ西洋化を推進」。会話文より、トルコ帽は洋装化と礼拝の両立を狙って導入されたことが読み取れる。

以上より、空欄 が「タンジマート」、空欄 が「イスラームの儀礼に配慮しつつ西洋化を推進」となるので、③が解答となる。

問 2

正解は①。下線部④「図 1 の会談が行われた時期」を推定する方法として提示されている 2 つの方法それぞれに対して、絞り込んだ時期の正しい組合せを選ぶ問題。

まず、「あ」の「中国の官吏の間で、辮髪（べんぱつ）の風習が広く見られた時期を調べる」について検討する。辮髪は清朝の時代に皇帝によって強制された髪型である。したがって、図 1 の会談が行われた時期を、W の「清が滅亡する契機となった辛亥革命までの時期」に絞り込むことができる。

次に、「い」の「日本の政治家や軍人が、洋装を取り入れていった時期を調べる」について検討する。日本で洋装を取り入れたのは、明治時代である。したがって、図 1 の会談が行われた時期を、Y の「近代的軍隊が創設される契機となった明治維新以降の時期」に絞り込むことができる。

以上より、「あ」—W、「い」—Y の組合せが正しく、①が解答となる。

問 3

正解は③。ドイツ（プロイセン）の使節団の情報に関するノートについて述べた文に関する本文指摘問題。

本文は③。ドイツと修好通商条約を結んだ 1861 年以前に、日本はアメリカと 1858 年に日米修好通商条約を結んでいる。

①は誤文。ヴィルヘルム 2 世が即位したのは 1888 年のことである。

②は誤文。当時のシンガポールはイギリスの植民地である。

④は誤文。当時、日本において条約締結交渉を行ったのは江戸幕府である。

問 4 4

正解は④。綿糸の生産量について述べた文とグラフから読み取れることに関する文について、正文の組合せを選ぶ問題。

綿糸の生産量について述べた文として正しいものは「い」。綿糸の生産量は糸を紡ぐ紡績機から推計でき、紡績機の中には多数の紡錘を備えた多軸紡績機も存在するため、より正確には、紡績機の錘数から生産量を推計できる。

グラフから読み取れることに関して正しい文は Y。日本の帝国議会は 1890 年に開設されたが、それから 10 年の間に日本の国内生産量は 21 から 128 と 5 倍以上増加している。

以上から、「い」－Y の④が解答となる。

B

問 5 5

正解は②。パネル 1 から読み取れること、および、その背景について述べた文に関する正文指摘問題。

正文は②。パネル 1 から京城・上海・天津・東京・大阪でモダンガールが現れたことが読み取れる。京城は日本の植民地であった朝鮮に位置し、中国の上海・天津には租界が設けられていた。東京・大阪は独立国日本の都市なので、東アジアでは植民地・租界・独立国でモダンガールが見られたことが分かる。

①は誤文。モダンガールは短い髪が特徴である。

③は誤文。韓国併合以後、京城には朝鮮総督府が設置された。

④は誤文。中華人民共和国の成立は 1949 年である。

問 6 6

正解は②。資料について述べた文に関する正誤判定問題。

「あ」は正文。ファシズム体制下のイタリアでは、思想や言論が統制された。さらに、資料からは衣服産業が国内市場を制圧するために、支援を行うことを目標としていることが読み取れる。

「い」は誤文。ファシズム体制はフランスでは成立していない。

以上から、「あ」－正、「い」－誤の組合せが正しく、②が解答となる。

問 7 7

正解は④。パネル 2 に関して述べた文に関する正文の組合せを選ぶ問題。

パネル 2 の内容からパネル 2 はイラン＝イスラーム革命に関する内容であることが読み取れる。イラン＝イスラーム革命以前のイランではパフレヴィー 2 世による白色革命の下で近代化が推進されていた。しかし、1979 年にイラン＝イスラーム革命が勃発すると、パネル 2 の内容にあるように

イスラーム主義に基づく政策が行われた。したがって、挿絵 1 はイラン＝イスラーム革命以後、挿絵 2 はイラン＝イスラーム革命以前であることが読み取れる。

以上から、「い」と「え」の 2 つの選択肢が正文であることが分かるので、④が解答となる。

問 8

8

正解は⑥。メモの内容に関する年代整序問題。

メモⅠの「ジェンダー平等を実現しよう」を含む「持続可能な開発目標（SDGs）」は 2015 年の国連サミットにおいて採択された。

メモⅡの男女雇用機会均等法の制定は 1985 年である。

メモⅢのウーマン・リブの発生は、1960 年代後半のことである。

以上から、メモⅢーメモⅡーメモⅠの⑥が解答となる。

第 2 問

解答

A

問 1 ④

問 2 ③

B

問 3 ④

問 4 ①

C

問 5 ①

問 6 ②

問 7 ②

解説

A

問 1 9

正解は④。空欄 ア ・ 空欄 イ に当てはまる語句の正しい組合せを選ぶ問題。

ア に当てはまるのはカイロ。資料中のアズハル＝モスクはカイロに存在していた。

イ に当てはまるのは黒死病（ペスト）。14 世紀にヨーロッパで流行していた疫病はペストである。

以上より、空欄 ア にカイロ、空欄 イ に黒死病（ペスト）が当てはまるので、④が解答となる。

問 2 10

正解は③。14 世紀にカイロを支配していたのはマムルーク朝なので、本問はマムルーク朝に関する正文指摘問題である。

正文は③。マムルーク朝は、白人奴隷軍人であるマムルーク軍団によるクーデタによって成立した。また、モンゴル軍の西進を阻止した。

①は誤文。マムルーク朝はアイユーブ朝のトルコ系マムルーク軍団出身者が建国した。

②は誤文。マムルーク朝はスンナ派の王朝である。

④は誤文。マムルーク朝はトルコ系のマムルーク軍団が建国した。

B

問 3 11

正解は④。血の日曜日事件の起こったウの都市はペテルブルクであるので、本問はペテルブルクに関する正文指摘問題である。

正文は④。ソ連では 1980 年代半ばからペレストロイカ・グラスノスチが進行し、言論の自由化や政治改革が進み、1991 年に住民投票でレニングラードからサンクト＝ペテルブルクに改称された。

①は誤文。ギリシア正教に改宗し、これを国教とした君主はキエフを都とするキエフ公国のウラディミル 1 世である。

②は誤文。初めてツァーリの称号を用いたのは、モスクワを都とするモスクワ大公国のイヴァン 3 世である。

③は誤文。1918 年当時、十月革命で臨時政府を打倒したソヴィエト政権がモスクワに遷都した。

問 4 12

正解は①。時代ごとの文化的特色に関する誤文指摘問題。

誤文は①。トスカネリが地球球体説を主張したのは、15 世紀である。

②は正文。18 世紀のヨーロッパでは啓蒙思想が流行し、啓蒙主義者のディドロらが『百科全書』を編纂した。

③は正文。モース（モールス）が電信機・モールス信号を発明するなど、19 世紀の技術革新によって情報伝達が高速化した。

④は正文。20 世紀初頭の中国では、胡適が口語に基づく白話文学を提唱し、文学革命が進行した。

C

問 5

13

正解は①。空欄「エ」に当てはまる適切な文を選択する問題。

適切な文は①。タイのアユタヤ朝は 1767 年にコンバウン朝によって滅ぼされ、その後の 1782 年にラタナコーシン朝が成立した。

②は不適。阮福暎が西山政権を滅ぼしたのは 1802 年のことである。

③は不適。ビルマがインド帝国に併合されたのは 1886 年のことである。

④は不適。ナポレオン 3 世がインドシナに出兵したのは 19 世紀中頃のことである。

問 6

14

正解は②。20 世紀初頭のバンコクの状況に関する正誤判定問題。

「あ」は正文。図 2 には城壁外の南東部に外国領事館を多数確認できる。19 世紀後半、ラタナコーシン朝は欧米諸国と外交関係を樹立した。

「い」は誤文。会話文や図 2 から、新たにパドゥンクルンカセーム運河が建設されるなど水上交通路はさらに発達していることが分かる。

以上から、「あ」一正、「い」一誤の組合せが正しく、②が解答となる。

問 7

15

正解は②。生徒のメモ内容の正誤判定問題。

佐藤さんのメモは誤り。空欄「ア」に当てはまるカイロではカイロ会談が開かれて対日処理方針が議論された点は正しいが、インドシナ戦争の休戦協定が締結されたのはジュネーヴである。

中原さんのメモは正しい。会話文から、対外貿易の発展が市街地の拡大に影響したことが読み取れる。また、空欄「ウ」に当てはまるペテルブルクは、西欧文化を輸入する拠点として建設された。

以上から、中原さんのメモのみが正しいので、②が解答となる。

第 3 問

解答

A

問 1

16

 ②

問 2

17

 ③

B

問 3

18

 ④

問 4

19

 ③

C

問 5

20

 ①

問 6

21

 ④

問 7

22

 ⑥

解説

A

問 1 16

正解は②。空欄 ア に当てはまる人名と資料 1 から読み取れる内容の正しい組合せを選択する問題。

空欄 ア に当てはまるのは「あ」のシェークスピア。『ハムレット』はシェークスピアの代表作である。

資料 1 から読み取れる内容は Y。資料 1 には「アントニウスが司令官として、あるいは戦士として行動しているのではないという事実である」と記述されている。

以上から、「あ」—Y の組合せが正しく、②が解答となる。

問 2 17

正解は③。女性が政治に関わることに関する正誤判定問題。

「あ」は誤文。則天武后（武則天）は科挙によって官僚を登用した。

「い」は正文。マリア＝テレジアは、オーストリア継承戦争でシュレジエンをプロイセンに奪われた後、長年対立していたフランスと同盟を結んだ。

以上から、「あ」—誤、「い」—正の組合せが正しく、③が解答となる。

B

問 3 18

正解は④。空欄 イ に当てはまる人名と『五経正義』が編纂された理由の正しい組合せを選択する問題。

空欄 イ に当てはまるのは「い」の孔穎達。孔穎達は太宗の命で『五経正義』を編纂した。

『五経正義』が編纂された理由は Y。『五経正義』は、科挙の実施にあたり、五経の解釈を統一するために作成された。

以上より、「い」—Y の組合せが正しく、④が解答となる。

問 4 19

正解は③。研究の例「あ」・「い」が可能であるか判定する問題。

「あ」は可能である。文章から、「註」の部分には後漢の儒学者鄭玄の注釈が記されていることが分かる。

「い」は可能である。文章から、「疏」の部分には唐の時代の孔穎達の注釈が記されていることが分かる。

以上より、「あ」・「い」、いずれの研究も可能であるため、③が解答となる。

C

問 5 20

正解は①。『大唐西域記』を記したのは玄奘なので、本問は玄奘が訪れた時代のインドに関する正文指摘問題であることが分かる。

正文は①。玄奘は 7 世紀前半、ハルシャ＝ヴァルダナ統治下のヴァルダナ朝に訪問した。ヴァルダナ朝は、当時、北インドを支配していた。

②は誤文。チャンドラグプタがマウリヤ朝を建てたのは、前 4 世紀頃である。

③は誤文。『マヌ法典』が成立したのは前 200～後 200 年頃である。

④は誤文。竜樹（ナーガールジュナ）が、大乘仏教の教理を体系化したのは、2 世紀頃である。

問 6 21

正解は④。空欄 エ に当てはまる語句と、カニンガムと同じ手法で資料を用いたと考えられる研究の正しい組合せを選択する問題。

空欄 エ に当てはまるのは「い」。文章から、イギリスのインド史研究者は「イギリス時代」を「イスラーム時代」の後に位置づけていることが読み取れることに加えて、イギリスはムガル帝国を滅ぼし、インドを植民地化した。

カニンガムと同じ手法で資料を用いたと考えられる研究として正しいものは Y。資料 3 からカニンガムの手法は、現地の人によって記された文献ではなく、旅行者によって記された文献を用いたものであったことが読み取れる。ルブルックは、大モンゴル国（モンゴル帝国）を訪れた修道士なので、ルブルックの記録も旅行者によって記された文献になる。

以上より、「い」－Y の組合せが正しく、④が解答となる。

問 7 22

正解は⑥。資料 4 から読み取れる事柄と資料 4 が書かれた時期の政治的背景の正しい組み合わせを選択する問題。

資料 4 から読み取れる事柄は「い」。資料 4 には「外国人がこれを研究するのはいいのだが、盗み去ることは不法行為である」と述べられている。

資料 4 が書かれた時期の政治的背景として正しいものは Z。資料 4 から、スタインが初めてやってきたのは 1900～01 年の義和団戦争のときであることが読み取れる。資料 4 が書かれたのはそれから 30 年後なので、1930～31 年であることが分かる。この直前の 1928 年まで中国では北伐が進められていた。

以上から、「い」－Z の組合せが正しく、⑥が解答となる。

第 4 問

解答

A

問 1 ①

問 2 ②

B

問 3 ③

問 4 ④

問 5 ②

解説

A

問 1 23

正解は①。空欄 ア に当てはまる文とその背景の正しい組み合わせを選択する問題。

空欄 ア に当てはまるのは「あ」。グラフでは、1850 年には輸入量が 7 億 5000 万ポンドを下回る程度である一方、1880 年の輸入量は 15 億ポンドを超えていることが読み取れる。

背景として正しいものは X。イギリスでは 18 世紀後半以来産業革命が進展したことによって、マンチェスターを中心に綿織物業が発展し、原料である綿花が大量に必要となった。

以上から、「あ」－X の組合せが正しく、①が解答となる。

問 2 24

正解は②。メモの内容に関する正誤判定問題。

木村さんのメモは誤り。グラフでは、1862～65 年間の輸入総量は 1860 年の水準に達していない。

加藤さんのメモは正しい。グラフからは、1862～65 年の間、アメリカ合衆国からの綿花輸入量は落ち込んでいることが読み取れる。この時期アメリカは南北戦争の最中で、このため輸入量が激減したと推測することができる。

以上から、加藤さんのメモのみが正しいので、②が解答となる。

B

問 3 25

正解は③。空欄 イ と空欄 ウ に当てはまる文の正しい組合せを選択する問題。

空欄 イ に当てはまるのは「ノルマンディー公国を建てた」。911 年にロロはノルマンディー公国を建てた。

空欄 ウ に当てはまるのは「ビザンツ帝国と接触した」。ヴァイキングは東方でドニエプル川を経由して黒海に進出し、ビザンツ帝国と商業を行った。

以上から、イー「ノルマンディー公国を建てた」、ウー「ビザンツ帝国と接触した」の組合せが正しく、③が解答となる。

問 4 26

正解は④。空欄 エ に当てはまる適切な文を選択する問題。

適切な文は④。アメリカ大陸では鉄は知られていなかったため、鉄の釘はアメリカ大陸外から持ち込まれたと考えられる。

①は誤文。ジャガイモはアメリカ大陸原産である。

②は誤文。アメリカ大陸では牛や馬が利用されていなかったが、会話文から家畜を飼っていた形跡がないことが読み取れる。

③は誤文。トウモロコシはアメリカ大陸原産である。

問 5

27

正解は②。ヨーロッパ人の海外進出に関する年代整序問題。

下線部③のコロンブスのサンサルバドル島到着は 1492 年の出来事である。

I は 15 世紀前半の出来事である。ポルトガルの航海王子エンリケは 15 世紀前半に西アフリカへの進出を始めた。

II は 1565 年の出来事である。1565 年にメキシコからフィリピンへの太平洋航路が発見され、メキシコの銀がフィリピンに持ち込まれるようになった。

以上から、I → 下線部③ → II の順番となり、②が解答となる。

第 5 問

解答

問 1	28	④
問 2	29	①
問 3	30	②
問 4	31	①
問 5	32	③

解説

問 1 28

正解は④。空欄 ・空欄 ・空欄 に当てはまる語句の組合せとして正しいものを選ぶ問題。

空欄 に当てはまるのは百済。問題文と解説シートから、出土した木簡は 7 世紀前半の扶余で用いられていたことが読み取れる。扶余は百済の都であった。

空欄 に当てはまるのは朝鮮半島。表 1・メモ 1 から朝鮮半島では、返済済みの穀物の量と未返済の穀物の量の合計が貸し付けた穀物の量の 1.5 倍になっていることが読み取れる。同様にメモ 1 から、8 世紀の日本の律令には、返済時に 5 割の利息をつけることが定められていたことが読み取れる。したがって、日本と朝鮮半島の制度には利息規定に関する共通点がある。

空欄 に当てはまるのは唐。メモ 1 から唐には利息に関する規定が見つかっていないことが分かるため、日本と唐の利息規定に関して比較することはできない。

以上から、ア―百済、イ―朝鮮半島、ウ―唐の組合せが正しく、④が解答となる。

問 2 29

正解は①。パネル 1 の内容およびその背景に関する正文指摘問題。

正文は①。パネル 1 から、16 世紀のイングランドでは漁業が奨励され、その目的の一つに、戦時に利用できる船員と漁船を増やして海軍力を強化することがあったことが読み取れる。

②は誤文。パネル 1 からカトリックとの連関は読み取れない。また、エリザベス 1 世は国教会を確立した人物であり、カトリックを復活させようとしていない。

③は誤文。イギリスはオランダ独立戦争において、オランダを支援していた。

④は誤文。航海法の制定は 1651 年である。

問 3 30

正解は②。空欄 ・空欄 に当てはまる語句の組合せとして正しいものを選ぶ問題。

空欄 に当てはまるのは「保留地に隔離」。19 世紀前半、先住民は先住民強制移住法によって保留地に強制移住させられた。

空欄 に当てはまるのは「供給された食材に依存」。パネル 2 から、先住民は伝統的な生活様式の放棄を強いられ、かつ食料難となったこと、その際に連邦政府の食料支援政策により小麦粉やラードが供給されたことが読み取れる。ここから、フライブレッドが供給された小麦粉やラードしか食材がない中で作り出されたものであることが分かる。

以上から、エ―「保留地に隔離」、オ―「供給された食材に依存」の組合せが正しく、②が解答となる。

問 4 31

正解は①。表 2・メモ 2 に関する正文指摘問題。

正文は「あ」と「う」。

「あ」について、メモ 2 から配給制の導入は、動員による農村の労働力不足、および、イギリスの海上封鎖によって引き起こされた食料不足に対応するためであったことが読み取れる。ここから配給制が総力戦体制構築の一環であったことが分かる。

「う」について、表 2 から、ライ麦粉は 26 倍以上値上がりしている一方で、牛肉の値上がりは 4.75 倍にとどまっていることが読み取れる。

「い」は誤文。ドイツ革命の結果、ドイツは共和国となった。

「え」は誤文。メモ 2 では、政府が決めた価格で食料を購入できることが読み取れるため、食料を無料で入手できたわけではないことが分かる。

以上から、「あ」と「う」が正文なので、①が解答となる。

問 5 32

正解は③。空欄 α に当てはまる主題とその主題をさらに追究するための事例として正しい組み合わせを選択する問題。

空欄 α に当てはまるのは「あ」。問 1 は国家の穀物貸付制度の状況、問 2 は 16 世紀のイングランドの政策による食料への影響、問 3 は 19 世紀前半のアメリカ合衆国の先住民に対する政策と食料への影響、問 4 は第一次世界大戦下でのドイツの政策と食料への影響を問題としている。よって、これらに共通するのは、政治権力が食料事情や食生活に与えた影響を問題としていることである。

事例として正しいのは Z。毛沢東によって推進された「大躍進」は、急速な農業集団化と工業化を目的に実行された政策であり、多大な餓死者を出した。

以上から、「あ」—Z の組合せが正しく、③が解答となる。